



防災だより

～ 地域福祉等推進特別支援事業 ～

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1
電話：998-4000
FAX：998-8999
社協HP
<http://www.yaeseshakyo.com/index.html>

さいがい つよ や え せ ちよう め ぎ
災害に強い八重瀬町を目指して!

平成 27 年度

大頓団地自治会ふれあい交流会
～住民同士のつながりと防災を考える～

P 2～3



平成 27 年度
親子
心肺蘇生法教室
・・・その他 P 5



平成 27 年度
防災講話
(後原ミニデイ
サービス)
・・・その他 P 6

防災紙芝居
「読み聞かせ」

・・・ P 6



平成 27 年度
当銘子ども会
親子防災教室

P 4

東日本大震災から5年
「わたしは今」

・・・最終ページ

平成 27 年度

大頓団地自治会ふれあい交流会

～ 住民同士のつながりと防災を考える ～

日 時：平成 28 年 2 月 14 日（日） 9:00 ～ 12:00

場 所：大頓団地自治会集会所

参加者：大頓団地住民 約 40 名

主 催：八重瀬町社会福祉協議会

共 催：大頓団地自治会

内 容：①火災講話・消火訓練（協力：島尻消防）
②もちつき
③炊き出し試食（協力：八重瀬町赤十字奉仕団）
④防災講話・意見交換会

【目的】

現在、私たちの暮らす地域社会は近隣関係の希薄化等により、若者から高齢者に至るまで孤立世帯や閉じこもり世帯の増加が進んでいます。

そのような中、近年全国各地で大規模な災害（東日本大震災等）が発生し、日頃から地域での繋がりづくりや支えあい活動は益々重要となっています。

そこで、大頓団地自治会においてふれあい交流会を開催し、地域コミュニティの更なる活性化と日頃から助け合える地域づくりの構築を図ることを目的に開催しました。



火災講話・消火訓練



事務局まとめ

アンケートのご意見・ご感想の中から・・・

「ありがとうございました。防災ってなに？関係ないと思っていましたが、考えさせられました。」という感想があがりました。

東日本大震災によって引き起こされた津波により多くの命が奪われました。震災から5年…災害＝津波を連想し、海拔40m以上の大頓団地は災害に対し『津波の心配はない』と防災に関して関心が低かったようです。



防災講話・意見交換会

＝アンケート集計＝

☆講話や意見交換会はどうでしたか？

- ・分かりやすくてとても良かったです。
- ・知らなかったことを知ることが出来た。
- ・各棟のお母さん、お父さんと交流ができて良かった。

☆炊き出しやもちつきの感想をおきかせください。

- ・初めて餅つきをして、とても楽しかった！

☆講話や意見交換会をきっかけに、これから何かできそうですか？

- ・お互い助け合いやすくなり、情報交換ができそう。
- ・独居の方が同じ棟に2世帯いるので気にかけてみたいと思った。
- ・災害のこと、もっと関心を持つと思う。

おもちは、
こうやってひっくり
返すんだよ！



赤十字奉仕団の活動紹介・炊き出し試食・もちつき

「防災ってなに?」「関係ない!」という声は、大頓団地に関わらず他の地域でも言えることではないでしょうか?災害時に関わらず、地域づくりは大切で、大頓団地においては高齢独居世帯や母子家庭の世帯割合が多く「支え合い」は必要だと考えています。

交流会をきっかけに「挨拶」や「声かけ」を心がけ、お互いに気にかけてほしい!という声が上がると、とても良い交流会になりました。

※見守りのネットワークができ「顔の見える関係」ができることで、災害時には安否確認や避難場所での助け合いがスムーズに行われることにも繋がってきます。



平成27年度 当銘子ども会親子防災教室



【目的】

災害は、いつ・どこで・どんな時に発生するか分かりません。普段から災害に備えることが防災・減災につながることから本防災教室を通して、親子で「知る・体験する・備える」を学び、家庭内、地域住民同士で防災・減災の意識向上を図ることを目的に開催しました。



日 時：平成27年8月2日（日） 8:30～12:00
場 所：当銘公民館・沖縄市防災研修センター
参加者：当銘子ども会の親子など 約45名
主 催：八重瀬町社会福祉協議会
協 力：八重瀬町赤十字奉仕団



沖縄市防災研修センター



消火訓練



防災紙芝居
防災クイズ



当銘子ども会のみなさん



赤十字奉仕団による
説明
炊き出し試食

—ご意見・ご感想（アンケート集計結果より）—

◆防災教室を通して感想をお聞かせください。

- ・ 家族で、避難場所の確認をしたいと思う。
- ・ 地震って、とても怖いことがわかった。
- ・ 近所の人と仲良くして顔を覚えてもらいたい。
- ・ 消火器で火が消せて良かったです。

◆防災教室を体験して、あなたや家族の防災に対する考え方や意識は変わりましたか？

- ・ 子ども達が、興味をもって参加しました。
- ・ 家族で食事しながら避難の仕方を話合ってみたい。
- ・ とにかく落ち着いて行動することを意識したい。
- ・ 日頃から家庭や地域で防災・減災に取り組むことの大切さや親子で話し合う機会を持ちたい。

など、感想があがりました。また、保護者からは「消火器がないときは、どうしたらいいですか？」等と、質疑応答も行われ、親子で防災について学ぶことができました。

最後に、子ども会からは「よい機会をいただきました。」と、声をいただきました。

平成27年度 お話サロンていーらぶい「心肺蘇生法教室」

実際に、トレーニングマネキンを使って確認してみましょう。



私にもできることがあるんですね！



日時：平成27年12月2日（水）14:00～16:00
場所：社会福祉会館2F ボランティア室
参加者：お話サロンていーらぶい利用者 8名
主催：八重瀬町社会福祉協議会
共催：BLS沖縄

【目的】

過去の災害において障がいのある方や高齢者などの要援護者の方が数多く被災されました。しかしながら障がいのある方を対象とした心肺蘇生法教室を実施することがなく、家族が倒れた時どうしたらいいの？等、当事者自身の不安が懸念されます。そこで、町内在住のお話サロンていーらぶい利用者を対象に、いざという時にパニックにならず対処できるようになることと、命について考えることを目的に開催しました。

平成27年度「親子心肺蘇生法教室」

子育て中はとても不安なことだらけです。子連れで受講できたこと感謝しています。



小さな子どもにも、いざという時できることがありますよ！

日時：平成27年9月27日（日）10:00～11:30
場所：社会福祉会館2F 集会室
参加者：町内在住の小学生以下の親子 20名
主催：八重瀬町社会福祉協議会
共催：BLS沖縄

【目的】

日本国内で一年間に約7万人の方が突然心臓が止まる「心原性心停止」状態に陥っています。心停止は、主に自宅内で発生しています。そこで、大事な家族が突然の心停止状態になった場合に備え、親子で「命」について考えることを目的に実施しました。

防災講話 後原ミニデイ

日 時：平成28年2月26日（金） 13:00～14:00
場 所：後原公民館
参加者：後原ミニデイ利用者 18名
協 力：島尻消防

日頃から、地域との関わりを大切にしている後原ミニデイ利用者の皆さん。島尻消防による「火災講話」と社会福祉協議会による「防災講話」で地域の安心・安全について学びました。



※地域と連携をとりながら、講話等も行っています。災害に強い八重瀬町にしていきたいと思います！

台風に備えて (講話) 各ミニデイ

日 時：平成27年7月～8月 ミニデイ実施時間内
場 所：各字公民館など
対 象：各ミニデイ利用者

台風の襲来を受けることが多い沖縄においては、倒木等の被害、家屋や施設の破損、道路交通の遮断などのほか人的被害まで至る可能性もあります。台風接近は事前に情報を得ることができるものです。情報を早めに収集し台風の備えを行いましょう。



※不用意な外出はしないようにしましょう。

防災紙芝居

町内の保育園・幼稚園・小中学校、またミニデイサービス・いきいき活動において防災意識向上の一環として「防災紙芝居」の読み聞かせを行いました。

紙芝居は、聞き手の反応をみながらゆっくり進めました。園児の反応は「机の下に隠れるんだよ!」「お話ちゃんときいて避難する!」など意見や感想が沢山あがりました。日頃から、少しでも防災について考えてもらえれば嬉しく思います。



※防災講話・防災紙芝居は、お気軽にご相談ください。

「八重瀬町の防災について」～緊急時の対応について～

介護支援専門員八重瀬町支部定例会の中で「八重瀬町の防災について」の講話依頼をうけました。役場の取り組み、社協の取り組みについて講話を行い質疑応答も行われました。

平成27年9月16日(水) 14:00～15:00



【職員対象】心肺蘇生法講習会・災害用品説明会

心肺蘇生法やAEDの適切な使用方法を習得し、職員が業務中に緊急を要する場面に遭遇した時の対応方法が迅速かつ的確に行えることを目的に実施しました。

平成27年6月10・11日と10月30日



避難訓練に参加

11月5日は「世界津波の日」全国一斉に“大規模津波を想定した避難訓練”が行われました。過去の災害を教訓に、私たちができることや備えについて学びました。(参加対象地区:港川・長毛・長毛団地)

平成27年11月5日(木) 主催:八重瀬町役場



家庭用火災警報器設置

平成18年6月1日より消防法により家庭用火災警報器の設置が義務付けられました。島尻消防は普及活動に取り組んでおり、島尻消防より設置協力の依頼を受け高齢独居世帯などへ設置をしました。

平成27年11月4・6・10日 主催:島尻消防



東日本大震災から5年。。わたしは今

仕事が失くなる。住んでいる家が失くなる。すべて失くなるなんて想像もしていませんでした。それが現実になったのが、3月11日です。一瞬にして町が流され、さっきまで話していた隣の人が浮かんでいました。



意見の違いで、身近な人たちとぶつかり合った。祖母が軒先でつくる野菜が食べられなくなった。線量計を持ち歩いて測定していると、「まだ気にしてるの?」と言われた。ただ子どもたちを危険から守りたいだけなのに、「放射脳」と言われたこともある。みんな、不安と苦悩でいっぱいの日々を精一杯生きていたのに、助け合うところが傷つけ合った。



目標は、陸前高田の町を震災から8年で復興させること。大きな1歩として、今年の秋、ベルトコンベアでの土砂運搬作業が終了した。山を削り、土を運ぶために張り巡らされていた巨大なベルトコンベアが、ついに解体される。我々被災者にとっては「復興の象徴」だったものだ。それがなくなってしまうのは嬉しい反面、複雑な気持ちだが、まだまだ道半ば。子どもはもちろん、お年寄りや障がいのある方が幸せに暮らし、どこよりも人生を謳歌できる町をつくる。



参考資料
東北復興新聞



～編集後記～

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震に伴って発生した地震津波により、いまだに17万8000人が避難生活を送っています。(復興庁より)

沖縄に住む私たちができることは、震災の記憶を風化させず教訓とし、防災や減災に取り組むことではないでしょうか。社会福祉協議会では、地域とともに災害に強い地域づくりを目指し避難訓練や研修会等を行っています。

